

国有林野所在市町村の魅力紹介

岩手県岩手郡岩手町

盛岡森林管理署

北緯40度に位置する岩手町は、県都盛岡市から北へ約30kmの地点にあり、東側には北上山地、西側には奥羽山脈が連なり、町の総面積の約76%が山林・原野となっており豊かな自然に恵まれています。

その利点を活かし野菜の総合生産地として数多くの野菜が栽培されています。特に栽培の歴史が100年を超えるキャベツは、現在、春系キャベツを中心に東北一の産地となっており、甘さが強くみずみずしいブランドキャベツ「いわて春みどり」は、県内はもとより全国の消費者から高い評価を得ています。また、全国有数のブルーベリー産地

特産キャベツとブルーベリーのPRキャラクター



たまなぼうや



ブルベリーナ

としても栽培が盛んに行われており、加工品なども各種販売されています。



特産キャベツとブルーベリーの栽培 (写真提供：岩手町)



ブルーベリージュース (左)
キャベツ酎 (右)

町の中央部を流れる東北一の大河・北上川は、岩手町御堂の御堂観音境内にある泉が源泉となっています。この泉は「弓弭の泉」と呼ばれ、平安時代後期の「前九年の合戦」で源義家がこの地に進軍した際、弓弭（弓のつるをか

ける先端部分）で岩を突くと清水が湧き出て、炎天下の中で苦しむ兵馬が救われ、闘いに勝利したという伝説があります。



東北一の大河・北上川の源泉 弓弭の泉

子抱の一本杉は町指定の文化財として天然記念物（巨木）に指定されています。幹回りは6.5m、樹高は約24mで、古くから町内有数の巨木として知られ、樹齢は900～1000年とも伝えられています。この地域は元々天然杉の生息域ではなく、神社や寺にスギを植える風習がありました。現在は、地元の自治振興会が管理を行っています。



子抱の一本杉

彫刻と石神の丘美術館

また、彫刻のある町として岩手県初の野外彫刻美術館が「道の駅 石神の丘」に隣接し、町を一望できる見晴らしのよい場所となっています。

このほか、2020年7月に内閣府より「SDGs 未来都市」に選定され、自治体間で連携する取り組みを行うSDGs ツアーなど様々な事業を進めています。

お問合せ先：岩手町企画商工課 Tel：0195-62-2111